

税金と路線バス

屋代高等学校附属中学校 2年

「に、二億円!？」路線バス等の運行にかかる市の負担額に、僕はおどろいた。ここにも税金が使われていたからである。

この夏、僕は毎日通学に利用している路線バスについて調べた。一時間に一本しかないバスの本数がさらに減ると聞き、バスの運営に関心を持ったのだ。僕が住む市では、約70%の人が自動車で移動しているため、バスなどの公共交通を利用する人は全体の6%だけであり、非常に少ない。

このような状況だと、多くのバス路線が赤字となってしまう。そうすると、業者によるバス運行が困難になるので、市が経費の一部を負担している。その額が二億円だ。校舎をはじめ、机や教科書など僕の周りには税金によって充実した生活環境が整えられている。一步、家の外に出れば、道路や信号も税金で整備されている。さらに、毎日通学に利用するバスにも、たくさんの税金が使われていたのだ。これを知った時、僕は改めて、税金のありがたみを感じた。本数は少ないけれど、税金補助があるからこそ、僕は毎日学校に通うことができるのだ。

今回、バスについて調べるために、市や県のホームページを見てみたら、たくさんの資料があった。現在の公共交通の問題点を調査したもの、市の未来の公共交通を考える具体的な案などがあった。

僕たちが未来に向けて、安心して生活できるように、税金は使われていることが分かった。25年後、この市は、高齢化率が約40%となる。祖父は言う。

「今は自動車を使っているけど、運転できなくなったら、バスを利用する他ないなあ…。」

「しかし、バス停は遠いし、バスを待つにもベンチや屋根もないからなあ…。」

目先の便利さだけで生活をしてきたために、現在のような自家用車中心の状態になっている。祖父にとって、路線バスの問題は数年先のことだが、僕たちにとっては将来ずっと必要不可欠な課題となってくる。現在の生活を支えるだけでなく、未来に向けてこれから何をすればよいか、税金を使って、調査、研究していることが分かった。

このように税は、私たちの身近な生活を守るために、いろいろな形で使われている。

近々、消費税が8%から10%に引き上げられる。そのことについて様々な報道がされ、税金に対するマイナスイメージを持つ人もたくさんいると思う。しかし、税金は教育や、福祉、医療、公共設備など、私たちが安心して暮らしていくために使われている。だから、納税は私たちの義務なのである。税金について、関心を持ち、市民も一緒に考えていく姿勢が大切だと思う。

これからも僕は税金についてたくさん学び、しっかり納税できる社会人になりたいと思った。